

## 全国学力テストの結果を踏まえて勉強の意味を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今週の火曜日 8 月 27 日に、全国学力テストの結果が発表になりました。翌 28 日の水曜日には各新聞で報道されましたので、放送をお聴きの皆さんも随分と関心を持たれたことと思います。このテストは、全国学力学習状況の調査ということで、文部科学省と都道府県の教育委員会が各都道府県内の公立学校の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施したものです。
3. 栃木県の結果はどうだったかといいますと、国語は 2 つのテストがありまして、小学 6 年生は全国の中で 38 番目と 32 番目でした。中学 3 年生は成績がよくて、15 番目と 21 番目でした。小学 6 年生の算数は、1 つは全国で 29 番目、もう 1 つは 38 番目。中学 3 年生の数学は成績がよくて、数学 A は 22 番目、B は 26 番目という結果でした。全国から見ると、栃木県の小学 6 年生の国語と算数の成績は平均よりも低く、中学 3 年生は国語も数学も平均よりよい成績のようです。中学 3 年生はほとんどが全国平均以上ですので、あまり心配はないかもしれません。問題なのは、小学 6 年生の成績がどちらも全国の平均より低いということです。頑張らなければいけないのは小学生かもしれません。
4. では、どうすれば成績が上がるのか考えてみたいと思います。秋田県が全国 1 位となり、福井県、石川県、富山県なども非常に成績がよいのですが、これらの県はなぜ成績がよいのでしょうか。栃木県の人口は 200 万人で、秋田県や福井県はもう少し少ないかもしれません。人口が少ないことが理由の 1 つとも思えますが、何よりも県全体が学力を高めようと一丸となっている現れではないかと思います。秋田県には私も何回か行かせていただきましたが、秋田県の方々は学力をつけたいと全県が一丸となって学力向上に取り組んでいます。福井県もそうです。
5. 栃木県も栃木県なりに頑張っています。ただ、秋田県や福井県に比べると学力への取り組みに甘いところが多いといえると思います。栃木県は小学 6 年生の国語が大変な状況にあります。そこで、具体的には、読書をもっともっとする、小学生にも新聞を読んでもらう、漢字の書き取りをきめ細かくやる、このようなことをやっていけば必ず成績は上がってくると思います。つまり、私が国語の学力を高める方法として提案したいのは、小学生には漢字の書き取りを学校でも家庭でも一所懸命にやっていただきたい、学校でも家庭でも社会でも読書の指導をもっともっとやっていただきたい、読書の中には新聞も入りますので、「新聞を教育へ」という運動を栃木県全体でもっともっと

やっていただきたいということです。これらを実行すると小学生の学力は必ず向上しますので、よろしくをお願いします。

6. ところで、皆さんの中には小学校や中学校の教科書をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、何年か前と比べると今年の4月からすごく厚くなりました。また、中身も非常に充実しています。そこで、学校の教科書をよく勉強していただき、また、教科書にはいろいろな参考文献や為になる本がたくさん紹介されていますので、それらを家庭や図書館でよく読んでいただきますと、国語の点数は必ず上がってきます。ですから、あまり心配なさらないで、学校の教科書・学校の勉強を中心に据え、その上で小学3・4年生ぐらいから上の子には家庭で本と新聞を読ませていただければと思います。加えて、漢字の書き取りもよくやっていただくと、全国学力テストの成績は何年かすれば必ず上がってきます。ただ、これを「栃木県全体でがんばろう」と一丸になってやるのと、「なすがままにしておけばいいんだ」という考えでいるのとでは、結果が随分と違います。そこで、栃木県の教育委員会を中心にして各市町の教育委員会も学力を上げることに注意をし、先生方が一丸となってやっていただければ必ず学力は上がりますので、よろしくをお願いします。

7. では、算数・数学はどうするのか。中学3年生は全国の平均よりもいいですが、それでも22位と26位で中位よりもちょっと上ぐらいですので、安心はできません。栃木県はものづくりの県です。これからものづくりをもっともっと頑張るためには、算数や数学が必要です。サービス産業でも算数や数学は不可欠です。また、コンピュータを勉強するときにも数学が必要です。ものごとを筋道立てて考えるには算数や数学がとても大事ですので、これらをもっともっと勉強して論理的な思考能力を身に付けていただきたいと思います。

8. なぜ算数や数学を勉強しなければいけないのかを子供たちに伝えるときには、学校の先生だけでなく、社会に出た方々、お爺ちゃん、お婆ちゃん、お父さん、お母さんがよく話してあげるとよいと思います。「テストに出るから勉強しなさい」「受験があるから勉強しなさい」というのではなく、「世の中のこういうところで役に立つから勉強したほうがいいよ」ということをわかりやすく子供たちにお話すると、算数や数学を勉強する意味がわかってきて必ずやる気になりますので、学力も身に着きます。学校の先生だけに頼るのではなく、このような形で県民みんなで子供たちの学力を上げるような取り組みをしていただければと思います。

9. 今週の水曜日に全国学力テストの結果が新聞に出て非常に話題になっていますので、今日はそれに関するお話をさせていただきました。学校だけに頼らないで、家庭でも社会でもできることはやっていただきたいと思います。その中で一番大事なことは、なぜ勉強するのか・この勉強をすると大人になってどのように役に立つのかということ、大人の立場で子供たちによく説明していただくことです。説明の仕方がわからない場合には、今お話したように「新聞を読んだほうがいいよ」とか「図書館にあるような本はちゃんと読みなさい」とか「漢字の書き取り練習や計算練習をしなさい」などと言っていただくと、子供たちは非常に納得しますので、どうかよろしく願いいたします。県民の学力を上げるには、栃木県の人たちが一丸となって取り組むのが最もよいと思いますので、頑張っていきましょう。

